中 央 区 内 景 気 動 向 調 査

令和８年８月調査結果

令和８年９月 30 日

中 央 区

― 総　括 ―

令和８年８月の動き

中央区内における８月の現状判断ＤＩは合計で 46.9 と、前回調査から 1.4 ポイント低下している。景気の先行き判断ＤＩは合計で 50.6 と、前回調査から 12.2 ポイント上昇している。

図表　景気の現状判断ＤＩ、先行き判断ＤＩ（合計）

（ＤＩ） 合計	令和８年 ４月	 ６月	 ８月	前回調査 からの変化
現状判断ＤＩ	46.3	48.3	46.9	(-1.4)
先行き判断ＤＩ	43.8	38.4	50.6	(12.2)

目　　次

調査の概要　1 頁

調査結果

1　景気の現状に対する判断　2 頁

2　景気の先行きに対する判断　3 頁

3　現在の景気水準に対する判断（参考）　4 頁

4　判断理由
(1) 景気の現状に対する判断理由着目点　5 頁
(2) 景気の現状に対する判断理由　6 頁
(3) 景気の先行きに対する判断理由　8 頁

（別紙）調査客体の分野・業種別人数構成　10 頁

中央区内景気動向調査　調査票　11 頁
(1) 家計動向関連
(2) 企業動向関連

調査の概要

1　調査の目的

中央区内において景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々の協力を得て、地域の景気動向を迅速かつ的確に把握し、効果的な施策を実施するための基礎資料とすることを目的とする。

2　調査の客体

中央区内の家計動向関連、企業動向関連で、代表的な経済活動の動向を敏感に反映する現象を観察できる業種において、適当な職種の中から選定した 50 人を調査客体とする。調査客体の分野・業種別人数構成については、別紙を参照のこと。

3　調査事項

(1)　景気の現状に対する判断（方向性）
(2)　(1) の理由
(3)　(2) の追加説明及び具体的状況の説明
(4)　景気の先行きに対する判断（方向性）
(5)　(4) の理由
（参考）　景気の現状に対する判断（水準）

4　調査月及び調査期間等

調査月は年６回の隔月に当月時点で実施、調査期間は調査月の中旬約１週間で、令和８年８月調査の調査票発送は８月７日（金）、回答期限は８月 19 日（水）である。

5　調査機関

本調査は中央区が主管し、委託先である株式会社日本経済研究所を取りまとめ調査機関として実施したものである。

6　有効回答率

調査客体 50 名に対し、有効回答客体は 40 名、有効回答率は 80.0%であった。

7　ＤＩの算出方法

景気の現状、または、景気の先行きに対する５段階の判断に、それぞれ以下の点数を与え、これらを各回答区分の構成比（%）に乗じて、ＤＩを算出している。

評価	良くなっている 良くなる （良い）	やや良くなっている やや良くなる （やや良い）	変わらない 変わらない （どちらともいえない）	やや悪くなっている やや悪くなる （やや悪い）	悪くなっている 悪くなる （悪い）
点数	＋１	＋０．７５	＋０．５	＋０．２５	０

1　景気の現状に対する判断

３か月前と比較しての中央区内における現状判断ＤＩは合計で 46.9 と、前回調査から 1.4 ポイント低下している。分野別にみると、家計動向関連ＤＩは 45.8 と、前回調査から 3.0 ポイント低下し、企業動向関連ＤＩは 47.7 と、前回調査から 0.1 ポイント低下している。構成比では、「変わらない」と回答した人の割合が 18.0 ポイント増加し、「やや良くなっている」と回答した人の割合が 10.8 ポイント減少した。

図表１－１　各分野における景気の現状判断ＤＩの推移表

（ＤＩ）　　令和８年

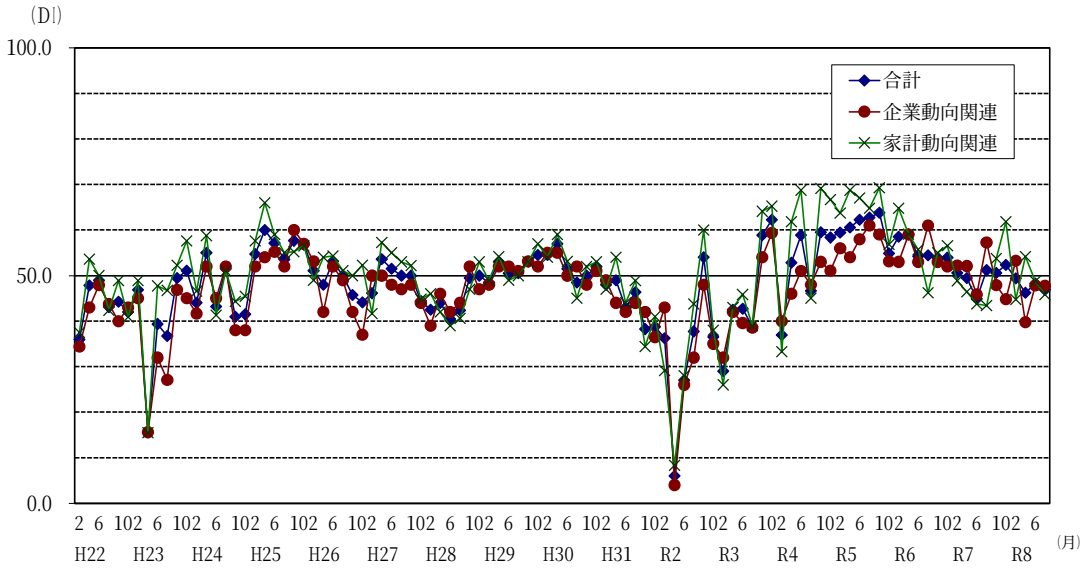
	４月	６月	８月	（変化幅）
合計	46.3	48.3	46.9	(-1.4)
家計動向関連	54.2	48.8	45.8	(-3.0)
小売関連	61.1	52.3	47.2	(-5.1)
飲食関連	―	―	―	(―)
サービス関連	45.0	40.0	45.0	(5.0)
住宅関連	―	―	―	(―)
企業動向関連	39.8	47.8	47.7	(-0.1)
製造業	30.0	35.0	40.0	(5.0)
非製造業	42.6	51.4	50.0	(-1.4)

(備考)家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

図表１－２　構成比

年	月	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
令和８年	4	2.5%	30.0%	27.5%	30.0%	10.0%
	6	2.3%	23.3%	39.5%	34.9%	0.0%
	8	2.5%	12.5%	57.5%	25.0%	2.5%
(変化幅)		(0.2)	(-10.8)	(18.0)	(-9.9)	(2.5)

図表１－３　各分野における景気の現状判断ＤＩの推移



２　景気の先行きに対する判断

２～３か月先の中央区内における景気の先行き判断ＤＩは合計で 50.6 と、前回調査から 12.2 ポイント上昇している。分野別にみると、家計動向関連ＤＩは 50.0 と、前回調査から 10.0 ポイント上昇し、企業動向関連ＤＩは 51.1 と、前回調査から 14.1 ポイント上昇している。構成比では、「やや悪くなる」と回答した人の割合が 26.5 ポイント減少し、「変わらない」と回答した人の割合が 18.0 ポイント増加した。

図表２－１　各分野における景気の先行き判断ＤＩの推移表

（ＤＩ）　　令和８年

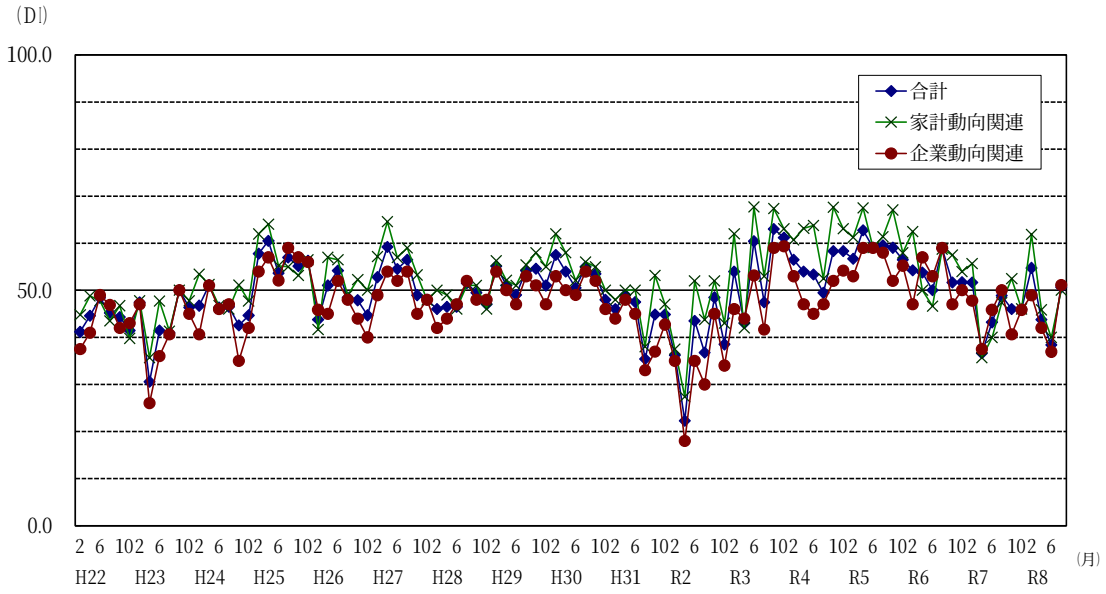
	４月	６月	８月	（変化幅）
合計	43.8	38.4	50.6	(12.2)
家計動向関連	45.8	40.0	50.0	(10.0)
小売関連	44.4	47.7	50.0	(2.3)
飲食関連	―	―	―	(―)
サービス関連	40.0	25.0	45.0	(20.0)
住宅関連	―	―	―	(―)
企業動向関連	42.0	37.0	51.1	(14.1)
製造業	30.0	20.0	40.0	(20.0)
非製造業	45.6	41.7	54.4	(12.7)

(備考)家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

図表２－２　構成比

年	月	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる
令和８年	4	0.0%	22.5%	37.5%	32.5%	7.5%
	6	0.0%	9.3%	39.5%	46.5%	4.7%
	8	0.0%	22.5%	57.5%	20.0%	0.0%
(変化幅)		(0.0)	(13.2)	(18.0)	(-26.5)	(-4.7)

図表２－３　各分野における景気の先行き判断ＤＩの推移



３　現在の景気水準に対する判断（参考）

現在の景気の水準自体に対する判断は、以下のとおりであった（注)。

図表３－１　各分野における景気の現状水準判断ＤＩの推移

（ＤＩ）　　令和８年

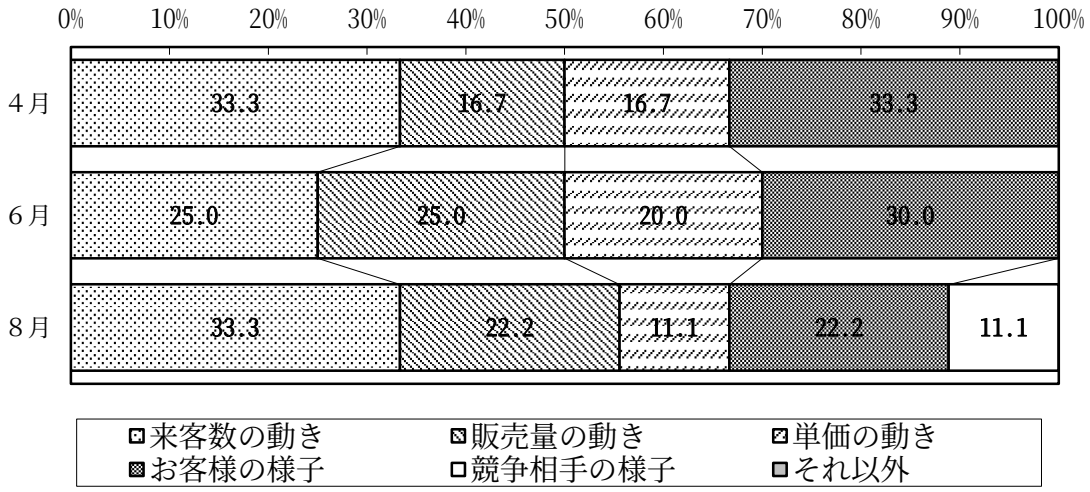
	４月	６月	８月
合計	51.9	49.4	51.3
家計動向関連	62.5	57.5	55.6
小売関連	66.7	59.1	58.3
飲食関連	―	―	―
サービス関連	65.0	60.0	50.0
住宅関連	―	―	―
企業動向関連	43.2	42.4	47.7
製造業	30.0	35.0	35.0
非製造業	47.1	44.4	51.5

(備考)家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

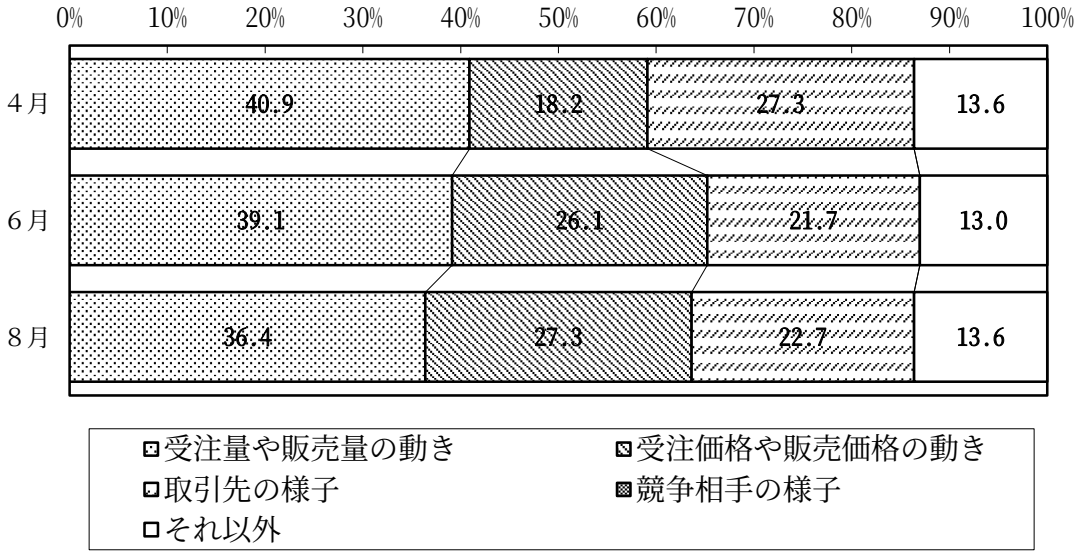
（注）景気の現状をとらえるには、景気の方向性に加えて、景気の水準自体について把握することも必要と考えられることから、参考までに掲載するものである。

４　（１）　景気の現状に対する判断理由着目点

家計動向関連



企業動向関連



注）本グラフは景気の現状に対する判断理由着目点の構成比を示している。
　　割合が０％の場合、数値は表記していない。

４　（２）　景気の現状に対する判断理由

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連	良くなっている	－	－	－
	やや良くなっている	百貨店（総務担当）	来客数の動き	・来客数は前年同期比プラスで推移しており、堅調に推移している。商品群では特選品や宝飾品などの高額品、インバウンドによる購買も引き続き好調である。
	変わらない	一般小売店［文具］（販売担当）	来客数の動き	・良い状態のまま変わらない。米国からのインバウンドが良く、客単価の上昇が続いている。
		百貨店（総務担当）	お客様の様子	・歴史的な円安を背景に、海外旅行を控えた国内客の買上動向が猛暑の中においても堅調である。また、中国本土からのインバウンドも徐々に増加しており、免税売上も高い伸びを示している。
		百貨店（広報担当）	単価の動き	・高付加価値商材への消費意欲の旺盛さが継続している。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・購入商品の価格差などからみて、景気が良くなっている人と変わらない人との差が出てきている。
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・前年に大幅に減少したインバウンドが、今年は前年比で120%と好調に推移している。一方で、セール期間中の国内客の来客数は年々減少している。
		高級レストラン（経営者）	競争相手の様子	・再開発による店舗の移動と新たなテナント入居者による開店などで来街者は増加すると思うが、現時点では来客数をどれだけ想定できるか分からない。
		高級レストラン（副店長）	単価の動き	・フリー客の来店は例年どおり弱いが、予約数は前年に比べて多い。
		一般レストラン（経営者）	お客様の様子	・３か月前は修学旅行生が多く来ていたが、今は夏休みで観光客や家族連れがそれなりに来ているため、変わらない。
		都市型ホテル（経営者）	来客数の動き	・業種的に、インバウンドの多さが商売のプラスになっている。
		理容室（経営者）	お客様の様子	・夏休みの旅行計画等は前年同様との話を客から聞いている。９月のシルバーウィークも、海外旅行は少ないものの、旅行の計画はある。
	やや悪くなっている	一般小売店［事務用品］（営業担当）	販売量の動き	・金額的には前年と変わらないが、価格が上がっている分、利益が減少している。前年比プラスでないと厳しい。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・ここ２～３年、７～８月は異常な猛暑により外出を控えたり、インバウンドも自国より暑いという客が多い。これからは夏場の来客数が減少するのではないか。
		競馬場（職員）	販売量の動き	・前月～今月の売上は３か月前と比較して80%弱である。季節によって売上に大きな変動があるものの、前年比でも93%のため、良いとはいえない。
	悪くなっている	－	－	－
企業動向関連	良くなっている	建設業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・仕事量の増加が大きい。
	やや良くなっている	印刷業・製本業（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・受注価格の改定が一定程度受け入れられているため、利益率の改善が見込まれる。一方、紙、インキ、運送コスト、電力代は高止まりしており、短期間での見積りにて対応している。
		不動産業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・大手オフィス仲介会社の調査では、都心５区の平均空室率は遂に１%台まで低下している。中央区内の空室率も、2025年11月以降９か月連続で２%台を継続しており、非常に需給バランスがひっ迫していることを示している。オフィス賃料は都心５区平均で31か月連続上昇中である。このことからもオフィス賃料の上昇傾向は当面続く。
		卸売業［機械器具］（営業担当）	取引先の様子	・夏が納入期限の物件があり、それなりに売上がある。
	変わらない	出版業（営業担当）	それ以外	・読者参加型の海外企画を提案しているが、燃油サーチャージと円安の影響で当初の計画より1.5倍の費用が掛かり、企画自体が危うくなっている。
		建設業（経営者）	取引先の様子	・一定程度内での取引条件に大きな変動はみられない。受注量についてもほぼ横ばいである。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		卸売業［繊維・衣服等］（経理担当）	受注量や販売量の動き	・仮店舗移転に伴う在庫一掃セールで売上が前年比で増加し、在庫が減ったことは一時的であるにせよ良かった一方で、業界としては特に良い方向にあるとはいえない。
		卸売業［機械器具］（営業担当）	受注量や販売量の動き	・下水道関連の仕事をしている中で、官公庁の予算や受注額の増加を感じる。
		経営コンサルタント	受注価格や販売価格の動き	・毎年８月のお盆時期は商店街ににぎわいがあるが、今年は例年より人通りが少ない。
		その他サービス業［造園・園芸］（営業担当）	取引先の様子	・下請業者から資機材更新に伴う契約見直しを受けることが多くなっている。
	やや悪くなっている	出版業（経営者）	それ以外	・物価が上昇しているため、どの家庭でも家計の引き締めに注力している。
		その他サービス業［ビルメンテナンス］（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・３か月前と比べて、月の予算に対して実績が約30%落ち込んでいる。今年に入り一度も予算を下回ることがなかったが、今月に関しては唯一下回っている。
	悪くなっている	―	―	―

４　（３）　景気の先行きに対する判断理由

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連	良くなる	－	－
	やや良くなる	一般レストラン（経営者）	・秋から冬に向かい、暑さも落ち着いて来場者も増えるのではないかとみている。
		都市型ホテル（営業担当）	・夏休み明けのビジネス需要が高まる。
	変わらない	一般小売店［事務用品］（営業担当）	・天候の影響もあり、一番厳しい時期を乗り切ったので、これからは良くなるのではないかという期待はある。ただし、物価高が足を引っ張っている。
		一般小売店［文具］（販売担当）	・相変わらず、インバウンドの動向は良い。特に、インドからの訪日客が増加している。
		百貨店（総務担当）	・値上げによる消費縮小の懸念が騒がれているが、百貨店ではその影響は小さく、現状の景気動向が継続すると考えている。
		百貨店（総務担当）	・入店客数は前年を上回る状態が続いており、インバウンドも堅調に推移していることから、底堅い推移が見込まれる。一部に物価上昇による節約志向もみられるものの、全体としては現状が継続する。
		スーパー（店長）	・大きなプラスやマイナス与件はない。
		コンビニ（店長）	・生活費に対する守りの姿勢は変わらず、消費が上がる様子はみられない。
		衣料品専門店（店長）	・物価高により、衣料品にまでお金が回らない様子で、現状維持が精一杯である。
		高級レストラン（経営者）	・夏場は再開発による店舗移動のため、６～８月は当店は休業する。街全体としては大きな変化はない。
		高級レストラン（副店長）	・10月の内定式後の会食や11月の早期の忘年会など、例年利用のある客から既に予約をもらっている。
		一般レストラン（経営者）	・夏休み疲れなのか、９月は例年暇になる。10月からは修学旅行、一般客もそれなりに来店してくれるため変わらない。今年は９月に大型連休があるので少し違うかもしれない。
		競馬場（職員）	・売上及び来客数共に前年比90%弱が続いており、この傾向は今年を通して変わらない。
		理容室（経営者）	・物価が高くなっている割には外食や旅行等の動向が余り変わっていない。
	やや悪くなる	都市型ホテル（経営者）	・天候不順や令和８年熊本地震等により、人の往来が少なくなってくるのではないかと危惧される。
		旅行代理店（店長）	・中東情勢が落ち着かず、物価高の影響もあるのか、旅行、特に海外に出発する客は減少する可能性がある。
	悪くなる	－	－
企業動向関連	良くなる	－	－
	やや良くなる	印刷業・製本業（営業担当）	・価格改定により、適正価格での取引が行われているため、短期的にはやや良くなる。
		建設業（営業担当）	・仕事量の増加と受注金額の上昇でやや良くなる。
		不動産業（企画担当）	・建築費の高騰は継続しているが、区内の新築オフィスや新築マンションでは、賃料や販売価格への転嫁が順調に進んでおり、今後も堅調に推移する。
		卸売業［飲食料品（鮮魚）］（経営者）	・世界では紛争が続いているとはいえ、日本はまだ影響が少ない。身の回りのＡＩ化が加速し、生成ＡＩの利用も進んで未来に希望が持てる。
		卸売業［機械器具］（営業担当）	・秋に向けての受注はある程度見込まれる。
		その他サービス業［ビルメンテナンス］（営業担当）	・現状、低下傾向ではあるものの、今後、大口案件や例年この時期に発生する業務案件等が見込まれる。
		その他サービス業［造園・園芸］（営業担当）	・少しずつ各分野での価格見直しの波が収束してきたようである。
	変わらない	新聞業（営業担当）	・受注量は減少を続けているが、減少を加速させる要素があるわけではなく、これまでと同じような減少速度が続くと考えている。
		建設業（営業担当）	・受注量が伸びてこない。
		建設業（経営者）	・今後の受注見通しについては、大きな増減がみられないと判断している。
		輸送業（従業員）	・物価は上がる一方で、ガソリン価格も高いままである。車に必要なオイル類の価格も上がり、整備や修理費も上昇している。しかし、こちらからの値上げ、価格転嫁は簡単にはできない状況である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		金融業［証券］（営業担当）	・長期金利の上昇傾向は依然として続くものの、急激な利上げ判断には至らないのではないか。また、為替についても良しあしはともかく、協調介入が一定のインパクトを示したこともあって、一方通行の展開は考えにくい。加えて、国際情勢も落ち着かないことから、当面ははっきりとした方向性は見えにくい。
		卸売業［繊維・衣服等］（経営者）	・国際情勢の悪化と来客数の減少に関連があるのではないか。消費者心理を改善させる施策が必要である。
		卸売業［繊維・衣服等］（経理担当）	・特別良い話は聞かないが、悪くなる状況でもない。
		経営コンサルタント	・物価高で消費は増えないが、今のところ、売上等に大きな変化は見受けられない。観光目的のインバウンドの動きも落ち着いてきている。
	やや悪くなる	出版業（経営者）	・インフレは消費意欲を減退させ、景気に悪影響をもたらすことが必至である。
		出版業（営業担当）	・物価対策が行われない状態で、毎月食料品や外食費が値上げとなり、生活はますます苦しくなる。
		金融業［証券］（営業担当）	・物価高、特に不動産価格の高騰により、将来への備えをするために消費を控えるのではないか。また、金利上昇も止まらないため、既に住宅を保有している家庭の負担も増える。
		卸売業［機械器具］（営業担当）	・中東情勢がいまだ見通せない。下請業者や当社の人材不足も解消されていない。
		その他サービス業［ビルメンテナンス］（管理担当）	・上期受注が全て完了し、下期受注分は後半に集中するため、下期前半の数か月は売上が落ちる傾向にある。
	悪くなる	―	―

（別紙）　調査客体の分野・業種別人数構成

分野	業種	調査客体数（人）
合計		50
家計動向関連		25
	小売関連	15
	商店街・一般小売店	5
	商店街代表者	0
	一般小売店経営者・店員	5
	百貨店	4
	百貨店売場主任・担当者	4
	スーパー	2
	スーパー店長・店員	2
	コンビニエンスストア	1
	コンビニエリア担当・店長	1
	衣料品専門店	2
	衣料品専門店経営者・店員	2
	家電量販店	0
	家電量販店経営者・店員	0
	乗用車・自動車備品販売店	1
	乗用車・自動車備品販売店経営者・店員	1
	その他小売店	0
	住関連専門店経営者・店員	0
	その他専門店経営者・店員	0
	その他小売の動向を把握できる者	0
	飲食関連	4
	高級レストラン経営者・スタッフ	2
	一般レストラン経営者・スタッフ	2
	スナック経営者	0
	その他飲食の動向を把握できる者	0
	サービス関連	6
	旅行・交通関連	3
	観光型ホテル・旅館経営者・スタッフ	0
	都市型ホテル・旅館経営者・スタッフ	2
	旅行代理店経営者・従業員	1
	タクシー運転手	0
	通信会社	1
	通信会社社員	1
	レジャー施設関連	1
	観光名所・遊園地・テーマパーク職員	0
	ゴルフ場経営者・従業員	0
	パチンコ店経営者・従業員	0
	競輪・競馬・競艇場職員	1
	その他レジャー施設職員	0
	その他サービス	1
	美容室経営者・従業員	1
	その他サービスの動向を把握できる者	0
	住宅関連	0
	設計事務所所長・職員	0
	住宅販売会社経営者・従業員	0
	その他住宅投資の動向を把握できる者	0
	その他家計の動向を把握できる者	0
企業動向関連		25
	農林水産業従業者	0
	鉱業経営者・従業員	0
	製造業経営者・従業員	5
	食料品製造業	0
	繊維工業	0
	家具及び木材木製品製造業	0
	パルプ・紙・紙加工品製造業	0
	出版・印刷・同関連産業	5
	新聞業	1
	出版業	2
	印刷業・製本業	2
	その他出版・印刷・同関連産業	0
	化学工業	0
	石油製品・石炭製品製造業	0
	プラスチック製品製造業	0
	窯業・土石製品製造業	0
	鉄鋼業	0
	非鉄金属製造業	0
	金属製品製造業	0
	一般機械器具製造業	0
	電気機械器具製造業（精密機械を含む）	0
	輸送用機械器具製造業	0
	その他製造業	0
	非製造業経営者・従業員	20
	建設業	4
	輸送業	1
	通信業	2
	金融業	2
	不動産業	1
	卸売業	6
	繊維・衣服等	2
	飲食料品	1
	建築材料、鉱物・金属材料等	0
	機械器具	3
	その他卸売業	0
	サービス業	4
	広告代理店・新聞販売店[広告]	0
	司法書士・経営コンサルタント・会計事務所職員等	1
	コピーサービス業	0
	その他サービス業	3
	その他非製造業	0
	その他企業の動向を把握できる者	0